

令和2年度 市内遺跡発掘調査報告書

2021

甲賀市教育委員会



## 序

甲賀市は滋賀県の南東部に位置し、国指定史跡である「紫香楽宮跡」・「垂水斎王頼宮跡」・「甲賀郡中惣遺跡群」・「水口岡山城跡」のほか、現在、約530箇所の埋蔵文化財包蔵地が確認されています。また、市域には有形無形を問わず、多くの文化財が地域の皆様によって守られ、大切に受け継がれています。

地域に残る文化財は、先人から受け継いだ貴重な財産であり、この「地域の宝」を守り伝えていくことが私たちの責務であると考えます。今日まで残されてきた文化財を保護し、調査、研究をすることによって地域の歴史が明らかとなり、市民活動と連携することで郷土への愛着や誇りの機運を醸成し、まちづくりへと発展していきます。

教育委員会では、市内の開発行為に伴い試掘・確認調査を行い、これまでの調査によって、新たな遺跡が発見されるなど、重要な成果をあげています。本報告書に掲載する調査成果が、本市の歴史を解明する一助となり、広く活用されることを切に願っています。

最後になりましたが、本報告書を刊行するにあたり、ご協力いただきました関係者の皆さまに厚くお礼申し上げます。

令和3年（2021年）2月

甲賀市教育委員会  
教育長 西村 文一



## 例 言

1. 本書は甲賀市教育委員会が令和元年度に実施した試掘調査の概要をまとめたものである。なお、本書に掲載した調査は、令和元年度に現地調査を実施し、令和2年度に整理調査を実施した。
2. 本書で報告している試掘調査にかかる経費は、国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金（国庫補助金）および滋賀県文化財保存事業費補助金（県費補助金）を得た。
3. 令和元年度および令和2年度の甲賀市教育委員会における調査体制は以下の通りである。

### 【令和元年度】

調査主体 甲賀市教育委員会 教育長 山下 由行

調査事務局 甲賀市教育委員会事務局 歴史文化財課

課長 吉川 寛

課長補佐 鈴木 良章

埋蔵文化財係長 小谷 徳彦

主査 渡部 圭一郎

技師 伊藤 航貴（調査担当者）

### 【令和2年度】

調査主体 甲賀市教育委員会 教育長 西村 文一

調査事務局 甲賀市教育委員会事務局 歴史文化財課

課長 鈴木 良章

課長補佐 竹原 勝敏

埋蔵文化財係長 小谷 徳彦

主査 渡部 圭一郎

技師 伊藤 航貴（調査担当者）

4. 本文の執筆・編集は伊藤が行った。また、本書に掲載した図面の作成は伊藤が担当した。
5. 本書で示す北は座標北である。
6. 本書で報告した試掘調査の図面・写真類については、甲賀市教育委員会が保管している。



## 目 次

全体概要	1
19-03 次 水口岡山城遺跡の調査	3
19-04 次 北泉遺跡の調査	7
19-05 次 美濃部出屋敷遺跡の調査	10
19-09 次 北沢遺跡の調査	13
19-12 次 お姫山遺跡の調査	16





## 全体概要

甲賀市において令和元年度に実施した埋蔵文化財の発掘調査は、開発事業などにかかる試掘調査及び分布調査が13件であった。

開発事業などに伴う試掘調査及び分布調査のうち、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲内で実施した調査が5件、同範囲外で実施した調査が8件であった。範囲外の調査は「甲賀市みんなのまちを守り育てる条例」の規定に基づき、開発事業の実施に先立ち、遺跡の有無を確認するために試掘調査及び分布調査を実施したものである。なお、開発に伴う試掘調査及び分布調査の件数は、平成30年度より18件減っている。

表1に令和元年度に実施した試掘・分布調査を一覧表にして示した。遺物の出土を確認した調査が0件、遺構の存在を確認した調査は0件であった。なお、お姫山遺跡では、調査前から遺跡内で墓石が確認されている。

本報告書では、遺跡内で実施した試掘調査についてその概要を記述する。

表1：令和元年度調査一覧

内容	調査 回数	調査 開始日	調査 終了日	調査地			目的	遺跡 有無	遺跡 名称	結果		
				町名	大字	小字				調査面積	遺物	遺構
試掘	19-01次	R1.10.3	R1.10.3	甲南町	池田	溝口	太陽光発電所	無		18.00	×	×
試掘	19-02次	R1.6.12	R1.6.12	土山町	北土山	城ノ越	特別養護老人ホーム	無		40.00	×	×
試掘	19-03次	R1.6.26	R1.6.26	水口町	元町		個人住宅	あり	水口岡山城遺跡	9.00	×	×
試掘	19-04次	R1.7.8	R1.7.8	水口町	泉		個人住宅	あり	北泉遺跡	3.00	×	×
試掘	19-05次	R1.8.8	R1.8.8	水口町	梅が丘		個人住宅	あり	長瀬部出城敷遺跡	3.00	×	×
試掘	19-06次	R1.9.26	R1.9.26	土山町	北土山	辻垣外	倉庫	無		18.00	×	×
分布調査	19-07次	R1.9.12	R1.9.12	水口町	八田	勝谷	太陽光発電所	無		9,756.02	×	×
分布調査	19-08次	R1.10.16	R1.10.16	信楽町	中野	中垣外	太陽光発電所	無		111,803.89	×	×
試掘	19-09次	R1.12.18	R1.12.18	水口町	新城	北沢	福祉施設	あり	北沢遺跡	20.00	×	×
試掘	19-10次	R1.12.25	R1.12.25	水口町	三本柳		事業所	無		12.00	×	×
試掘	19-12次	R2.2.4	R2.02.14	甲賀町	鳥居野		工業団地造成	あり	お姫山遺跡	102.00	×	×
試掘	19-11次	R2.1.10	R2.1.10	甲賀町	油日	長野	太陽光発電所	無		12.00	×	×
試掘	19-13次	R2.03.24	R2.03.30	水口町	秋葉、元町		認定こども園建設	無		105.00	×	×

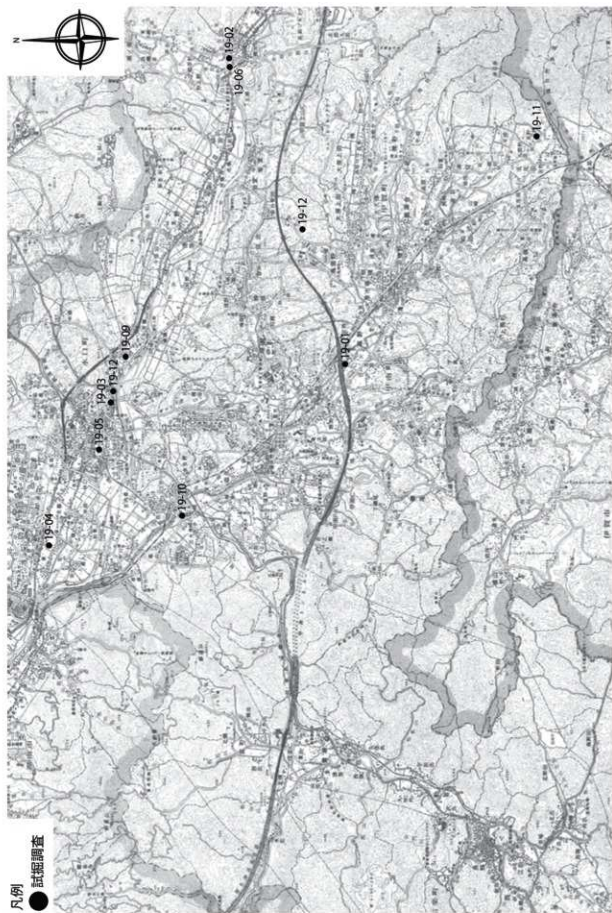


図1：令和元年度 試掘調査実施位置図 1：10,000

## 19-03 次 水口岡山城遺跡

### 調査位置と調査経緯

水口岡山城遺跡は、水口町水口に位置する織豊期の城跡である。甲賀郡最大の独立丘陵である古城山に、天正13(1585)年、羽柴秀吉の家臣中村一氏によって水口岡山城は築かれ、その山麓部に家臣団屋敷や城下町が整備された。天正18(1590)年には増田長盛が城主として入り、文禄4(1595)年には長束正家が入っている。慶長5(1600)年の関ヶ原の戦いの後、廃城となった。江戸時代には水口藩の御用林として、一般の人々の立ち入りは制限されていた。

遺跡は、石垣や樹形虎口などの城郭遺構が良好に残る古城山一帯が「水口岡山城跡」として平成29年に国史跡に指定されている。また、江戸時代に描かれた絵図には、山麓部に城と城下町をわける堀が描かれ、この堀は現在でも水路として残っている。そして、この堀までの範囲が周知の埋蔵文化財包蔵地「水口岡山城遺跡」となっている。

これまでの発掘調査は、滋賀県教育委員会と甲賀市教育委員会によって実施されている。滋賀県教育委員会では、昭和56年に水道施設建設工事に伴い発掘調査を実施している。遺構は石列、石組井戸などが検出され、遺物は土師器などが出土している(滋賀県教委1981)。甲賀市教育委員

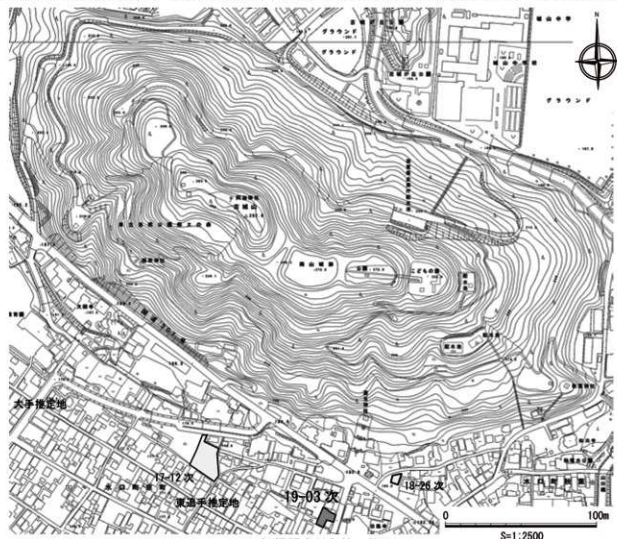


図2：試掘調査対象範囲位置図

会では、平成24年度から平成27年度にかけて、4次にわたる遺構確認調査を実施している。この発掘調査では、破城に伴う石垣崩落状況、本丸両端に造られた櫓台の構造などが明らかとなっている（甲賀市教委2016）。詳細な調査成果については、『水口岡山城跡総合調査報告書』を参照されたい。

山麓部の試掘調査は、平成29年度に甲賀市教育委員会によって、集合住宅建設に伴い東追手推定地周辺で実施された（17-12次）。調査の結果、城郭と城下町を区画する堀の一部とみられる東西方向に延びる堀跡が検出された。平成30年度には、遺跡の東端で個人住宅建設に伴う試掘調査が実施されているが、遺構・遺物ともに確認されていない（18-26次）。このように、山麓部での発掘調査は進んでおらず、家臣団屋敷や城下町の様相は明らかとなっていない。

19-03次は、遺跡南東端で実施した、個人住宅建設に伴う試掘調査で、調査面積は6㎡である。

### 調査概要

調査は1×3mのトレンチを2箇所設定した。基本層序は、第1トレンチは①黒色土、②暗茶褐色粘質土、③灰褐色粘質土で、現地表面から約30cm下で③層を確認した。第2トレンチは、④表土、⑤暗茶色粘質土、⑥明茶色砂質土で、現地表面から約40cm下で⑥層を確認した。

どちらのトレンチでも遺構、遺物ともに確認できなかった。

### まとめ

今回の調査では、水口岡山城遺跡に関する新たな埋蔵文化財は確認されなかった。調査前は、家臣団屋敷と城下町を分ける堀跡の推定地付近ということもあり、17-12次と同様に堀跡の検出が期待された。現況で小さな溝が調査地南側を流れており（写真5）、この溝が堀の痕跡であると考えられることから、トレンチを溝から約1m北側に設定した。しかし、堀跡を確認することができなかった。堀は城が機能していた時には、現在よりも幅の広い堀であったとみられ、調査地よりも南に広い堀であったと考えられる。

水口岡山城遺跡は、平成29年度に遺跡範囲が拡大し、調査件数も少しずつではあるが増加して



図3：トレンチ位置図

図4：土層図

いる。今回確認できなかった堀や、山麓部に存在したとされる家臣団屋敷も、今後の調査で明らかになることを期待したい。

《参考文献》

甲賀市教育委員会『水口岡山城跡総合調査報告書』2016

甲賀市教育委員会『平成30年度市内遺跡発掘調査報告書』2019

甲賀市教育委員会『令和元年度市内遺跡発掘調査報告書』2020



写真1：1トシ全景（北から）



写真2：1トシ土層（北から）



写真3：2トレ全景（南から）



写真4：2トレ土層（南から）



写真5：推定堀跡（東から）

## 19-04次 北泉遺跡

### 調査位置と調査経緯

北泉遺跡は、水口町北泉に位置する奈良時代の集落遺跡である。遺跡は野洲川が形成した河岸段丘上に位置し、東には北脇遺跡、西には下川原遺跡が立地している。北泉遺跡の中央部には塚越古墳が立地する。

遺跡内では、これまで試掘調査が11件実施されている。06-21次の調査では、堅穴建物や方形土坑を検出している。10-17次では方形土坑や溝を検出しており、遺物は須恵器や土師器が出土している。遺構や遺物を確認している調査は、この2件のみであり、これら以外の調査では遺構・遺物ともに確認されていない。

北泉遺跡内のほぼ中央部には、5世紀中葉後半に築造された塚越古墳が立地している。塚越古墳では、平成13年度に滋賀県教育委員会によって、国道1号拡幅に伴う発掘調査が実施されており、奈良時代中頃の堅穴建物が確認されている。この塚越古墳の調査で見つかった堅穴建物は、北泉遺跡での試掘調査で見つかった遺構と関連したものであると考えられる。

19-04次は、遺跡の南側で実施した個人住宅建設に伴う試掘調査で、調査面積は3㎡である。

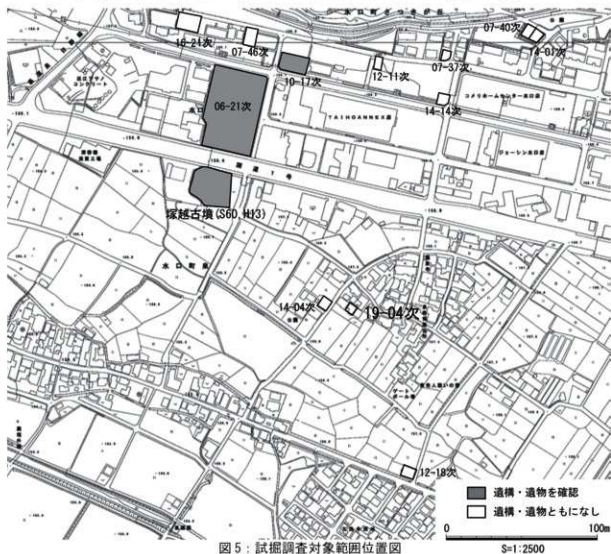


図5：試掘調査対象範囲位置図

## 調査概要

調査は3×1 mのトレンチを1箇所設定した。基本層序は①灰色砂、②灰色ブロック混じり暗灰褐色粘質土、③暗茶褐色粘質土、④明黄褐色粘質土(地山)で、現地表面から約30 cm下で④層を確認した。①～③層は既存建物を建てた際の造成土と考えられる。また④層は、比較的安定した面であったが、遺構は確認されていない。

今回の調査では、遺構遺物ともに確認されなかった。

## まとめ

今回の調査では、北泉遺跡に関する新たな埋蔵文化財は確認されなかった。個人住宅建設に伴う試掘調査のため、小規模な調査となってしまった。現在、北泉遺跡内で遺構が確認されているのは、国道1号沿いに位置する塚越古墳付近であり、古墳より南側は段丘崖であることから、北側に集落が形成されていたと考えられる。

水口盆地に立地する遺跡を時代順に見ると、下川原遺跡から北泉遺跡、北脇遺跡、西林口遺跡となり、野洲川の下流から上流へと人々の生活拠点が移動していることがうかがえる。このように北泉遺跡は、古代から中世の水口盆地での拠点集落の変遷を考える上で重要な遺跡である。

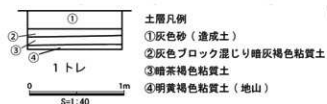


図7：土層図



図6：トレンチ位置図



《参考文献》

甲賀市史編さん委員会 2014『甲賀市史』第3巻 道・町・村の江戸時代

甲賀市史編さん委員会 2010『甲賀市史』第7巻 甲賀の城

甲賀市教育委員会 2018『平成29年度 市内遺跡発掘調査報告書』



写真6：1トレ全景（東から）



写真7：1トレ土層（東から）



摘されている。現在では、土塁の一部や土塁基底部が確認できるが、美濃部氏の城館遺構とは判断できない。また、遺跡内での発掘調査は、試掘調査が3件実施されているが、小規模な調査であり、美濃部出屋敷遺跡に関する遺構や遺物は確認されていない。

19-05次は、遺跡の南端で実施した個人住宅建設に伴う試掘調査で、調査面積は3㎡である。

#### 調査概要

調査は3×1mのトレンチを1箇所設定した。基本層序は、①濃茶色土、②暗灰褐色土、③暗灰褐色粘質土で、地表面から約100cm下で③層を確認した。①～②層には、プラスチックなど現代の廃棄物が一部含まれており、宅地造成に伴う造成土であり、③層についても安定した面ではなく、造成土であると考えられる。③層より下は、工事による掘削よりも深くなるため、地山まで掘削を行わなかった。

今回の調査では、遺構遺物ともに確認されなかった。

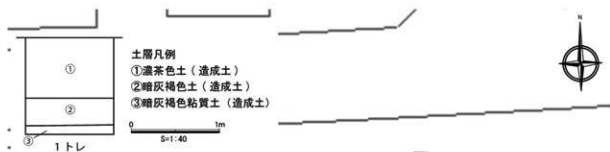


図10：土層図

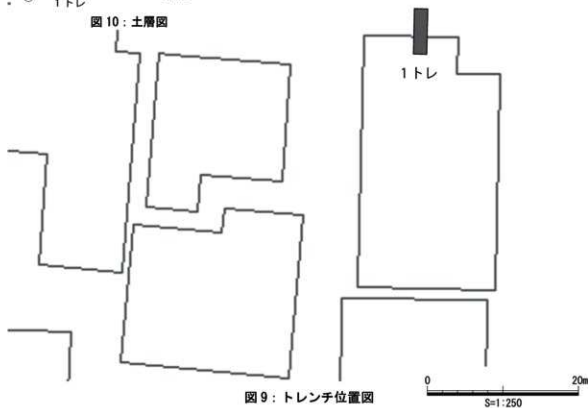


図9：トレンチ位置図

## まとめ

今回の調査では、美濃部出屋敷遺跡に関する埋蔵文化財は確認されなかった。これまでの試掘調査でも、地山より上層では近世から近現代の遺物が含まれる層があったが、今回の調査では近世に遡るような遺物は確認されなかった。調査地は北から南へ低くなる地形であり、段丘崖にも見えるが、宅地造成の盛土によって段丘崖のような段差ができたと考えられる。

美濃部出屋敷遺跡周辺は、既に宅地化されており、今後も小規模な試掘調査がほとんどであると考えられるが、調査の進展によって、美濃部出屋敷遺跡の様相が明らかになることを期待する。

## 《参考文献》

『甲賀市史』第7巻 甲賀の城 2010 甲賀市史編さん委員会

『令和元年度市内遺跡発掘調査報告書』2020 甲賀市教育委員会

『滋賀県中世城郭分布調査2』1984 滋賀県教育委員会 滋賀県総合研究所



写真8: 1トレ全景(南から)



写真9: 1トレ土層(南から)

## 19-09次 北沢遺跡

### 調査位置と調査経緯

北沢遺跡は、水口町新城に位置する古代の散布地である。野洲川右岸の河岸段丘上に立地しており、現在は田や宅地となっている。北沢遺跡は、平成18年度に実施された土地区画整理事業に伴う試掘調査(06-52次)で新たに発見された遺跡である。06-52次では、8世紀中葉から後葉にかけての須恵器の壺や甕、土師器が出土した。しかし、これらの遺物は遺構に伴うものではなく、周囲で投棄されたものであると考えられる。

19-09次は、遺跡の西端で実施した福祉施設建設に伴う試掘調査で、調査面積は20㎡である。

### 調査概要

調査は2×5mのトレンチを2箇所設定した。第1トレンチは、①耕作土、②暗灰褐色粘質土、③黒褐色粘質土、④灰色粘質土(地山)で、現地表面から約95cm下で④層を確認した。第2トレンチは、①耕作土、②黒褐色粘質土、③灰色粘質土(礫含む、地山)で、現地表面から約80cm下で③層を確認した。どちらのトレンチでも壁面から水が染み出てくる状況であった。

今回の調査では、遺構遺物ともに確認されなかった。

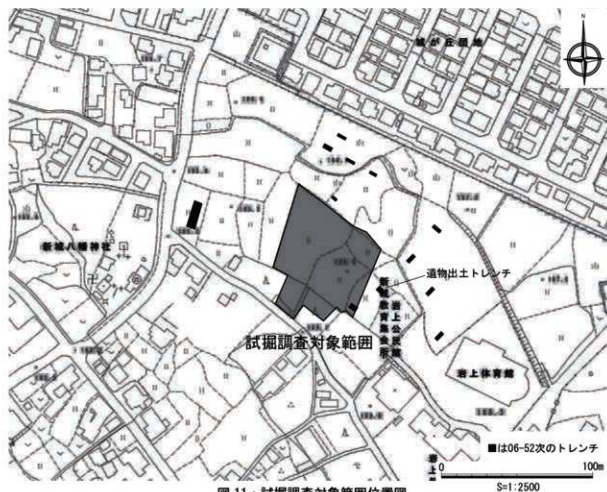
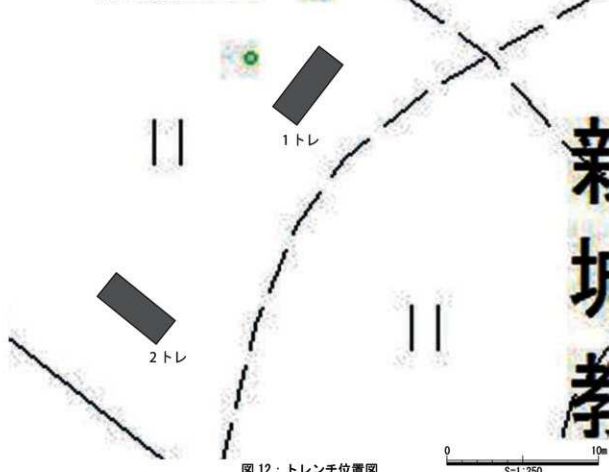


図11：試掘調査対象範囲位置図



### まとめ

今回の調査では、北沢遺跡に関する新たな埋蔵文化財は確認されなかった。北沢遺跡の周囲では開発が進み、調査件数は増えているが、遺構は確認されていない。また、どの試掘調査でも湧水が多く、湿地性堆積であることが確認されている。出土している須恵器は完形に近く残存状態も良く、摩滅していない。これらのことから、北沢遺跡周辺は、もともと湿地帯と考えられ、そのような場所に須恵器等が廃棄されたと考えられる。



写真 10：1トレ全景（南から）



写真 11：1トレ土層（南から）

## 19-12 次 お姫山遺跡

### 調査位置と調査経緯

お姫山遺跡は、甲賀町鳥居野に位置する墓跡である。遺跡は甲賀丘陵に立地しており、現在では墓石が小高い丘に存在している。この墓石は、鳥居野の旗本である篠山資門とその妻の供養塔である。地元では「お姫様の墓」という伝承があり、この墓石の位置する一帯を「姫山」と呼んでいる。墓石は姫山と呼ばれる丘の頂上から一段下がった平坦面に置かれている。

篠山氏は、大原谷（現在の甲賀町大原地域）を本拠とした大原氏の一族である。天正 13(1585)年に、景春が徳川家康に召し出されるが、慶長 5(1600)年、関ヶ原の戦いの前哨戦である、伏見城の戦いで討ち死にする。その一族である資家は鳥居野村を所領とした。なお、資門は 880 石の領地を有していた。

これまで、お姫山遺跡の発掘調査は実施されていないが、平成 11 年に鳥居野の歴史をまとめた『鳥居野史』が地域住民によって刊行され、墓石にまつわる伝承や笠部に彫られてある如意輪観音についての考察がまとめられた。しかし、学術調査が行われたというわけではないため、遺跡の詳細は不明である。

19-12 次は、工業団地造成に伴う遺跡全域を対象とする試掘調査で、調査面積は 102 m<sup>2</sup>となった。

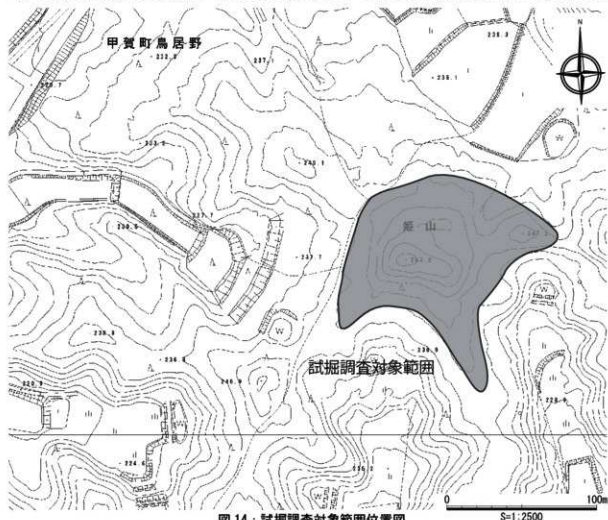


図 14：試掘調査対象範囲位置図



## 調査概要

トレンチは1×3mを9箇所、2×3mを11箇所、1×5mを1箇所、1×4mを1箇所、0.5×0.5mを4箇所設定した。基本層序は①黒褐色土、②黄灰色粘質土で、どのトレンチでも現地表面から約10cm下で②層を確認した。②層が地山面である。また、23～26トレンチは、墓石の四周に4箇所設定したが、こちらでも①層直下が地山面であった。

丘陵上に設定した第7トレンチ、第23～26トレンチでは、地山面にシルトが含まれていた。

なお、墓石以外に遺跡内で遺構遺物は確認されなかった。現状では、墓石の位置する姫山は、墳丘状の地形をしているが、古墳と考えられるような痕跡は全く確認できなかった。

## まとめ

お姫山遺跡については、これまで発掘調査が行われていなかったため、詳細は不明であった。

今回の試掘調査では、お姫山遺跡内では墓石以外に遺構は確認できず、遺物も確認できなかった。調査は地表面では確認できない遺構の有無を確認する目的で行ったことから、墓石の測量や碑文、内部構造の調査はおこなっていない。墓石は現状で保存されることが望ましいが、今後、工事に伴い墓石を移設する場合は、墓石の測量や内部構造を調査する必要がある。

## 【参考文献】

『甲賀市史』第3巻 道・町・村の江戸時代 2014 甲賀市史編さん委員会

『甲賀市史』第7巻 甲賀の城 2010 甲賀市史編さん委員会

『鳥居野史』1999 鳥居野史編集委員会



図15：トレンチ位置図



写真 12 : 1トレ全景 (北から)



写真 13 : 1トレ土層 (北から)



写真 14 : 2トレ全景 (北から)



写真 15 : 2トレ土層 (北から)



写真 16 : 3トレ全景 (南から)

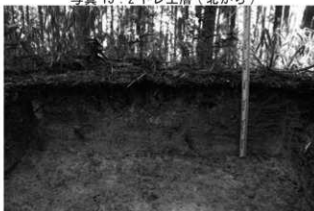


写真 17 : 3トレ土層 (南から)



写真 18 : 4トレ全景 (北から)



写真 19 : 4トレ土層 (西から)



写真 20 : 5 トレ全景 (北から)



写真 21 : 5 トレ土層 (北から)



写真 22 : 6 トレ全景 (西から)



写真 23 : 6 トレ土層 (西から)



写真 24 : 7 トレ全景 (東から)



写真 25 : 9 トレ全景 (南から)



写真 26 : 9 トレ土層 (西から)



写真 27 : 10 トレ全景 (北から)



写真 28 : 14 トレ全景 (北西から)



写真 29 : 14 トレ土層 (北西から)



写真 30 : 15 トレ全景 (南から)

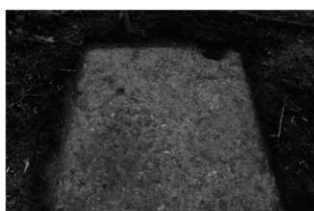


写真 31 : 16 トレ全景 (南から)

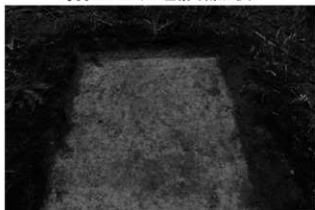


写真 32 : 17 トレ全景 (南から)

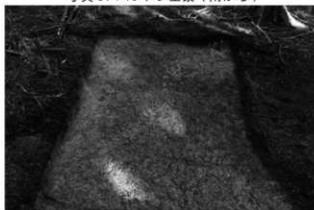


写真 33 : 18 トレ全景 (西から)



写真 34 : 19 トレ全景 (南から)



写真 35 : 22 トレ全景 (南から)



写真 36 : 23 トレ全景 (西から)

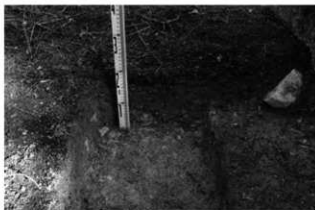


写真 37 : 23 トレ土層 (南から)



写真 38 : 24 トレ全景 (北から)



写真 39 : 24 トレ土層 (西から)

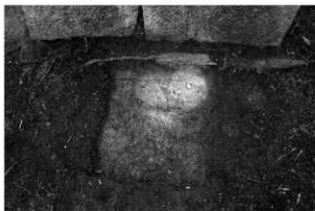


写真 40 : 25 トレ全景 (東から)



写真 41 : 26 トレ全景 (南から)



写真 42 : 墓石 (南から)



写真 43 : 墓石笠部

## 報告書抄録

ふりがな	れいわにねんど しないいせきはつちょうさほうこくしょ							
書名	令和2年度 市内遺跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	甲賀市文化財報告書							
シリーズ番号	第37集							
編著者名	伊藤 純貴							
編集機関	甲賀市教育委員会							
所在地	滋賀県甲賀市水口町水口6053番地							
発行年月日	令和3年(2021年)2月26日							
所収遺跡	所在地	コード		世界測地系		調査面積(m <sup>2</sup> )	調査期間	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
水口岡山城遺跡	水口町水口	25209	363-087	34° 58' 00"	136° 10' 55.6"	6	2019/6/26	個人住宅
北泉遺跡	水口町北泉	25209	363-104	34° 58' 56.1"	136° 08' 24.7"	3	2019/7/8	個人住宅
美濃郡出屋敷遺跡	水口町梅が丘	25209	363-112	34° 58' 11.8"	136° 10' 05.9"	3	2019/8/7	個人住宅
北沢遺跡	水口町新坂	25209	363-099	34° 57' 46.8"	136° 11' 43.1"	20	2019/12/18	福祉施設
お炬山遺跡	甲賀町鳥居野	25209	365-025	34° 55' 10.8"	136° 13' 53.1"	102	2020/2/4~ 2/12	工業団地
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
水口岡山城遺跡	城館跡	室町						
北泉遺跡	集落跡	古代						
美濃郡出屋敷遺跡	城館跡	近世						
北沢遺跡	散布地	古代						
お炬山遺跡	その他墓跡	江戸		墓石				宝永2年権山資門とその妻の墓

甲賀市文化財報告書第37集  
令和2年度 市内遺跡発掘調査報告書

印刷・発行 2021年2月26日  
編集・発行 甲賀市教育委員会  
滋賀県甲賀市水口町水口6053番地  
TEL 0748-69-2251  
FAX 0748-69-2293  
印刷 株式会社トップ

